日本には110の活火山が存在するが、その全ての火山に対する火山系博物館は存在しない。
1995年9月、昭和新山生成50周年の際に、三松正夫記念館の呼びかけで、全国の火山系博物館が有珠山に集合した。その時集まった博物館は北から順に、三松正夫記念館・磐梯山噴火記念館・浅間火山博物館・大涌谷自然科学館・伊豆大島火山博物館・阿蘇火山博物館であった。

そこで「本会は全国の火山地域の博物館及び類似施設の交流・情報交換を通し、相互の施設の発展と振興、火山に関連した学術文化的の進展に寄与するとともに、広く火山と人との共存をめざして博物館活動を行うことを目的とする。」という事業目標を定め、全国火山系博物館連絡協議会（以下、火山博物館ネットと表記）が活動を開始した。今年は活動開始20年目の節目の年でもある。

以下、著記のとおり様々な活動を展開している。

1. 現地研修会
2. 火山に関する巡回展示
3. 各地のジオパーク活動における拠点施設としての役割
4. 各地域における火山教育、防災教育活動

当初は各館持ち回りで火山研修会が中心であったが、2000年に有珠山と三宅島が出火をしたことから、活動領域が館の存在する地域以外にも広がっていった。特に三宅島は火山ガスの大量放出により、島民が長期間島に帰ることのできない状態を続いていた。なお三宅島は三宅島を支援しようという機運が高まり、三宅島火山を紹介する企画展を各地で巡回させることになった。展示作成にあたっては、産総研地質標本館にも協力をいただき、多大なご協力をいただき、2006年7月の磐梯山噴火記念館とスタートに巡回を開始した。三宅島展の展示資料は最終的に三宅島火山博物館設置の起爆剤になるように三宅島に寄贈した。更に企画会議の中で、三宅島火山もやろうということになり、2009年6月の立山カルデラ砂防博物館をスタートに巡回した。有珠火山展では、地質標本館だけでなく、北海道大学総合博

物館の協力も得て開催した。

また、東北大学総合博物館の協力のもと「白頭山の謎」という巡回展を2009年6月の磐梯山噴火記念館をスタートに巡回した。

その後、国立科学博物館（以下、理科と表記）で開催された富士山展を火山博物館で巡回させていただけるよう依頼し、了承を得た。この巡回展では理科と火山博物館、2007年2月に作成された「火山博物館・科学博物館」とは、それぞれの会場に出向き、手話向けの講座や大人向けの講座を実施した。

その後、2011年3月に霧島火山が規模の大きな噴火をしたことで、現在は加盟の枠を超え、日本ジオパークの各地を巡回中である。

日本で始まったジオパークの活動は、2015年7月現在36地域となっているが、その半分程度が火山地域である。日本でのジオパークの推進は有珠火山や鳥島半島など、我々の加盟の関係者中心的活動をってきた。

加盟館地域はすべて日本ジオパークに認定されているし、その中の有珠火山と鳥島半島と阿蘇は世界ジオパークに認定されている。

私たち火山博物館は、以上のように地域のジオパーク活動だけでなく、火山教育や防災活動でも中心的な役割を果たしている。今後も引き続き、火山の理解増進のために活動をしていきたいと考えている。